



中央農業高校 校長室だより 7月号 その2

－ 命はぐくむ学びの風景 －

神奈川県立中央農業高等学校 校長 岩崎秀太

夏休みに入り、本校では校内外で多くの教育活動が行われました。地域の皆様と触れ合いながら、生徒たちは学校で学んだ知識や技術を実践し、農業高校ならではの「本物の学び」を体験しています。今回は、その中から二つの取り組みをご紹介します。

食品加工部「手作りめんて流しうどんをしよう！」

7月25日、本校食品加工部が地域の子どもたちを対象に、「私たちと一緒に手作りめんて流しうどんをしよう！」を開催しました。本校第2食品製造室を会場に、年中児から中学3年生までを対象として実施され、高校生がサポートしながら、一人でうどん作りに挑戦するコースや、保護者と一緒に作るコースが設けられました。完成したうどんは、その場で流しうどんとして味わい、お土産として持ち帰ることもできる内容でした。

参加した子どもたちは、小麦粉をこね、踏み、伸ばし、包丁で切るという一連の工程を楽しみながら体験しました。初めてうどん作りに挑戦する子どもたちも多く、高校生が一人ひとりに優しく声をかけながら丁寧に教える姿がとても印象的でした。

自分たちの手で作ったうどんが流れてくると、子どもたちは歓声を上げながら箸を伸ばし、「おいしい！」という声があちこちから聞こえてきました。笑顔いっぱい流しうどんを楽しむ姿は、会場全体を温かな雰囲気包み、保護者の皆様にも大変好評でした。

本校の生徒にとっても、人に教えることの難しさや楽しさを学ぶ貴重な機会となりました。相手の立場に立って分かりやすく説明する力やコミュニケーション能力は、将来社会で活躍するために欠かせない力です。地域の皆様との交流を通して、生徒たちは技術だけでなく、人としても大きく成長しています。



「肉の大久保」で養豚部が豚肉販売会を実施

7月25日・26日の2日間、相模原市にある「肉の大久保」において、本校養豚部による豚肉販売会を実施しました。

この販売会では、生徒たちが店頭に立ち、お客様への商品説明や接客、販売を担当しました。日頃から愛情を込めて育てた豚を、安全・安心な食肉として消費者の皆様へ届けるまでが学びの一環です。生徒たちは、お客様との会話を通して、生産者の思いや商品の魅力を伝える貴重な経験を積むことができました。

26日は「土用の丑の日」と重なり、店内ではうなぎの特売も開催され、多くのお客様で賑わっていました。そのような中でも、本校の豚肉販売コーナーには多くのお客様が足を止めてくださり、大変好評をいただきました。中央農業高校ブランドの豚肉の品質の高さと、生徒たちの元気な接客が、多くの方々に評価されたことを大変うれしく思います。

農業高校の学びは、生産だけで終わるものではありません。販売や消費者との交流を通して、食を支える責任や地域とのつながりを実感できることも、大切な教育活動の一つです。



生徒たちは、家畜を育て、食品を加工し、その成果を地域の皆様へ届ける中で、多くのことを学んでいます。そして、地域の皆様との交流を通して、自分たちの学びが社会とつながっていることを実感しています。

これからも地域に開かれた学校として、多くの皆様に中央農業高校の魅力を知っていただけるよう、生徒とともに様々な活動に取り組んでまいります。どうぞ引き続き温かいご支援をよろしくお願いいたします。

「命はぐくむ」の理念のもと、生徒一人ひとりの成長を支えてまいります。
神奈川県立中央農業高等学校